竹島を考えるフォーラム発表資料　　2006年2月22日

「絵図・地図からみる竹島
　　ー韓国側の史料を事例としてー」

舩杉力修（島根大学法文学部・歴史地理学）

1．はじめに

・絵図：「主として日本の、近代的な測量による地図作成以前の古地図全般を指す」
　→その当時の地域像、世界観を反映している
　→文献だけでなく、絵図資料を用い、どの位置を認識していたのか、双方の資料で確かめる必要がある
・竹島（独島）と鬱陵島の位置【図１】
・従来の研究
　塚本　孝（1980）
　　韓国側の主張　于山島＝竹島（独島）とする
　　→古地図にどのように記載がなされているか
　　于山島（Ａ）鬱陵島の西側（朝鮮半島と鬱陵島の間）に描いている【図２】
　　→鬱陵島それ自体を誤って描いているもの
　　（Ｂ）鬱陵島北東１海里（1.8km）の竹島
　　（＝竹嶼）を描いたもの【図３・４】
　金　学俊（2004）
　　『新増東国輿地勝覧』所収「八道総図」【図５】
　　地図で誤った表記＝地図製作の未熟のため
　　現地に直接行って見なかった文官たちが地図製作
　　しかし２つの島があり、ともに朝鮮領であることを明らかにする
　　２つの島は天気が晴れればはっきり見え、風が穏やかならば２日で到達できる
　　朝鮮後期に製作された他の地図
　　朝鮮図：「東国地図」（1700年代初、鄭尚驥）、「海左全図」（1822年）
　　「朝鮮全図」（1846年、金大建）
　　郡県別地図：「輿地図」（粛宗17世紀後期～英祖18世紀前期）
　　于山島を鬱陵島の東に正確に描いている
　　朝鮮の領土であることを明確にする
　→果たしてこの見解は妥当であるのか、検討が必要
　→両者の見解を整理するためには、絵図を悉皆的に整理・検討する必要がある
　→従来の研究は日本側の絵図の検討がほとんど
　　：日本側の絵図の検討は別の機会に譲りたい
　→韓国（朝鮮時代）側の絵図についても悉皆的に検討する必要がある
・資料
　李燦（1991）：『韓国の古地図』（韓文）、汎友社
　　韓国に所蔵される朝鮮時代の絵図を系統的に紹介

　→時代を通じて、竹島、鬱陵島についての記載を検討することができる【表参照】
　李燦氏
　　1923年黄海道延白で生まれる
　　ソウル大学校師範大学地理学科卒業
　　米国ルイジアナ州立大学校大学院で碩士（修士）・博士学位（地理学）取得
　　ソウル大学校師範大学・教育大学院・社会科学大学教授歴任
　　ソウル大学校教育大学院長歴任
　　米国シカゴ大学客員教授
　　大韓地理学会会長、韓国科学史学会会長、社団法人韓国測地学会会長、
　　韓国文化・歴史地理学会会長、大韓民国学術院会員

2．韓国古地図にみる鬱陵島・于山島

・「混一疆理歴代国都之図」：1402年朝鮮王朝下で作成、ユーラシアとアフリカの全図
　　鬱陵島の記載あり
　　→15世紀には鬱陵島の地理的認識はあり。于山島はない。
・16世紀
　天下図（世界図）
　　「混一歴代国郡都疆理地図」：于山島のみ
　　→鬱陵島と于山島とを同一視している可能性がある
　　「華東古地図」：于山島（西）・鬱陵島（東）の記載
　　→その一方で、鬱陵島・于山島二島が存在するという認識がある
　　→しかし位置を検討すると、于山島は朝鮮半島と鬱陵島との間に記載がみられ、地理的混乱がみられる（実際に島はない）
　朝鮮全図の刊行：16世紀中期から
　　『新増東国輿地勝覧』所収「八道総図」：官撰地図【図５】
　　：于山島（西）・鬱陵島（東）の記載
　　＊「八道総図」（17世紀末期）のなかでも鬱陵島のみの記載あり
　　「朝鮮全図」：鬱陵島を「鬱山島」と記す【図６】
　　：于山島（北）・鬱陵島（南）の記載
　　その他の絵図では両島とも記載されず
　→鬱陵島・于山島の存在は認識しつつあるものの、両島の位置は東西だけでなく、南北にもあり、地理的かなり混乱がみられる
　→官撰地図、しかも木版として刊行された「八道総図」が国内での両島に関する地理的認識の拡大につながったと考えられる
・17世紀
　西欧式世界地図の登場
　　「坤輿万国全図（こんよばんこくぜんず）」1602年原図、1708年筆写：両島の記載なし【図７】
　　→アジアに進出した西欧人には両島とも地理的認識はなかった
　　「天下都地図」（万国地図）1623年原図、1770年代筆写【図８】

:「坤輿万国全図」を筆写したもの
日本海上に「鬱陵」と地名のみを記載。
日本海（＝坤輿万国全図）を「小東海」とする
日本列島の記載：九州・四国がなく一島とする
→朝鮮半島の地理的情報を新たに書き加えた可能性
→鬱陵島に関する地理的認識はあった
朝鮮全図
鬱陵島のみの記載：事例が少なくなる
于山島（西）・鬱陵島（東）の記載
：八道総図の系統
于山島（北）・鬱陵島（南）の記載
:「朝鮮八道古今総覧図」（金壽弘1601～81）の系統　【図９】
※金壽弘：戸曹参判（朝鮮朝廷の役職の一つ）を歴任
地図に歴史的事実を書き込んでいる
→両方とも木版本として刊行され、二島が存在するという認識が広がる
しかし位置はまだ混乱がみられ、確定されていなかった
※ 1696 年安龍福の証言（1728 年『肅宗実録』）
于山島＝松島、鬱陵島・于山島は朝鮮領である
・18 世紀
朝鮮全図
「東国地図」の刊行（18 世紀中期）
地図制作者鄭尚驥（チョン・サンギ）（1678 ～ 1752）
縮尺の概念を地図に適用し、距離が正確に記載されるように修正された
●鬱陵島（西）・于山島（東）の記載となる【図10】
しかし于山島は鬱陵島のすぐ脇に記載される
＝于山島が独島の位置に正確に記載されているわけではない
「興地図」、「海東地図」の刊行（18 世紀中期～後期）
鄭尚驥の地図の影響を受ける
天下図、中国図、日本国図、琉球国図、道別図などを収録
＝国際的な地図帳の刊行
「興地図」所収地図
「我国摠図」:
鬱陵島（西）・于山島（東）の記載＜鬱陵島のすぐ脇＞
「朝鮮・日本・琉球国図」:
●日本列島の記載：朝鮮半島・対馬の南部に描かれる【図 11】
木版本でも刊行される
※参考『朝鮮地図竝八道天下地図』所収日本国図【図 12】
→かなり不正確で、日本の位置を正しく認識していない
→朝鮮半島東部の日本海も正しく認識していない可能性あり

「海東地図」所収地図：鬱陵島の絵図が収録される【図 13】
●地形や河川、船の停泊場所、集落跡、石碑、墓地、竹田の分布
→集落跡、墓地などはかつての日本人の集落跡とみられる
東に「刻石立標　倭船倉可居」
※ 1696 年幕府：鬱陵島への渡航を禁じる
地図の上には鬱陵島の産物を記している
→島を実際に踏査して作成したと考えられる
●鬱陵島東部（すぐ脇の島）の島に「所謂于山島」と記す
→実際の調査をふまえ、この時期にようやく「于山島」の比定が行われる　＝現在の鬱陵島脇の竹嶼（竹島）にあたる
→調査の結果、朝鮮全図も「于山島」の表記が鬱陵島の東となったと考えられる
→しかし刊本の絵図では、一島のみや二島でも位置が異なるものがみられた
→記載が正しく絵図がみられたものの、まだ地理的混乱がみられた
※『東国文献備考』1770 年
「興地志に云う、鬱陵・于山は皆于山国の地で、于山は即ち倭の所謂松島である」
・19 世紀
朝鮮全図
「東国地図」の影響を受けた絵図が引き続き刊行された
鬱陵島（西）・于山島（東）の記載＜鬱陵島のすぐ脇＞
その一方で 19 世紀初期でも位置が異なる木版本が刊行されていた
「大東輿地図（デドンヨジド）」の刊行
金正浩（キムジョンホ）の作成
1834 年に金正浩が発刊した青邱図（チョングド）を発展させて作成
約 16 万分の 1 の地図、22 帖で構成ざれる：大縮尺の地図
山と河川の詳細な記載、
道路を直線で表記し、距離が分かるようにした
行政区域の境界を記す
都邑（官衙）・城郭・鎮堡・駅・倉庫・牧所（牧場）・烽燧（のろし）・陵寝（王陵）等の記載
●鬱陵島・于山島の記載
ソウル大学校奎章閣所蔵本（木版本）【図14】
鬱陵島の記載あり
「海東地図」所収絵図より、山の稜線・河川が記されている
→さらに現地調査をした可能性がある
しかし于山島の記載はない
国立国会図書館所蔵本の筆彩本【図 15】
鬱陵島：ソウル大学所蔵本より記載内容（説明）が多い
于山島の記載あり：鬱陵島の東側そばに描かれる

南北に長く描かれる
→現在の鬱陵島脇の竹嶼（竹島）にあたると考えられる

・19 世紀末期～ 20 世紀初期
「鰈域地図」所収「大朝鮮国全図」：19 世紀後期【図 16】
鄭尚驥の「東国地図」の影響
鬱陵島（西）・于山島（東）の記載＜鬱陵島のすぐ脇＞
于山島の北側には「東洋中日本諸島」とあり
→●于山島（＝竹嶼）の東側は日本の諸島であることを明記
＝于山島（＝竹嶼）の東側が朝鮮と日本との境界
※ 1876（明治９）年日朝修好条規の締結
※鬱陵島の空島政策：1417 年～ 1881 年
「鬱陵島外図」「鬱陵島内図」：1882 年頃　李奎遠による鬱陵島調査【図 17】
「鬱陵島検察使日記」：「松竹于山等の島、僑寓の諸人、皆傍近の小島を以て之に当てる」
「鬱陵島外図」の記載の属島：東側の「島頂」と「竹島」のみ
→現在の地図に比定すると「島頂」＝観音島、「竹島」＝竹嶼となる
（下條、2004、pp.107-112）
「大韓全図」大韓帝国の学部編輯局の編纂：1899 年【図 18】
経緯度の表記
鬱陵島（西）・于山島（東）の記載＜鬱陵島のすぐ脇＞
※日清戦争（1894 ～ 95）
※『大韓地誌』（1899 年）
：鬱陵島（東経 130 度）を朝鮮の東限とする（下條 2004、p.115）
※現在の竹島（独島）の経度：東経 131 度 52 分
「大韓輿地図」大韓帝国の学部編輯局の編纂：1900 年頃【図 19　】
上記「大韓全図」の記載を踏襲
鬱陵島（西）・于山島（東）の記載＜鬱陵島のすぐ脇＞
→鬱陵島の南部には島の記載があるが、石島の記載はない
※大韓帝国勅令 41 号（1900 年 10 月）：
鬱陵島を江原道の郡に昇格、同時に石島（＝独島？）も韓国領とする

３．おわりに

・朝鮮古地図にみる鬱陵島・于山島
16 世紀まで　鬱陵島＝于山島（一島）
鬱陵島・于山島二島の存在：于山島（西）・鬱陵島（東）
→日本海中に島が存在していたことは認識していたものの、正確な位置については認識していなかった
17 世紀　鬱陵島＝于山島（一島）は次第に消える
鬱陵島・于山島二島の存在：于山島（西）・鬱陵島（東）
于山島（北）・鬱陵島（南）

→日本海中に二島が存在していたことは認識していたものの、正確な位置については認識していなかった
18 ～ 19 世紀　鬱陵島・于山島二島の存在：鬱陵島（西）・于山島（東）
于山島は鬱陵島の東岸のすぐそばに比定
→鬱陵島の調査によって、于山島の位置が比定される
その一方で、島の位置に混乱がみられる絵図も引き続き刊行された
→ 18 世紀までは日本の位置や形も正確に捉えていなかった
→于山島は鬱陵島東岸の島で、現在の竹嶼と考えられる
19 世紀末期～ 20 世紀：鬱陵島（西）・于山島（東）
→経緯度の入った地図が刊行されるが、于山島の比定場所はそれまでと変わらなかった

・朝鮮地誌にみられる于山島（下條 2004、p.108）
「朝鮮社会には「于山島は日本の松島である」とする常識が拡散していった」
「その常識と、現実の地理については別物である」
「于山島が実際どこにあるのかは、当時、誰も関心をもって調査していなかったのである」
→ 17 世紀までは位置を比定していなかった
18 世紀になりようやく位置が比定されるが、鬱陵島東岸に浮かぶ小島（＝竹嶼）としており、その比定場所は 20 世紀に入っても変わっていなかった
→朝鮮は、地図上では、現在の竹島（当時松島）の位置を正確に把握していないし、朝鮮領としても認識していなかったことが分かる

＜文献＞

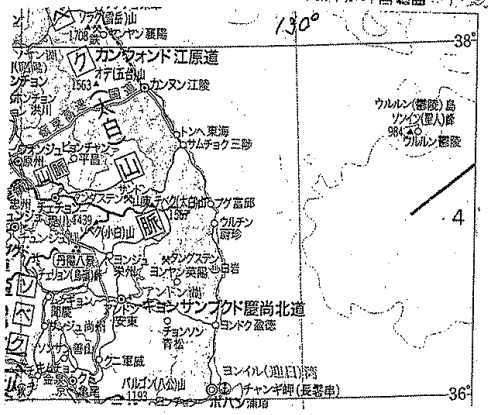
川上健三（1966）：『竹島の歴史地理学的研究』、古今書院
塚本孝（1980）：竹島関係旧鳥取藩文書および絵図（下）、レファレンス
昭和 60 年５月号
李　燦（1991）：『韓国の古地図』（韓文）、汎友社
吉田光男監修（1994）：『大東輿地図』（復刻、初版 1936 年）、草風館
内藤正中（2000）：『竹島（鬱陵島）をめぐる日朝関係史』、多賀出版
浜田市教育委員会編（2002）：『石見学ブックレット３八右衛門とその時代』、浜田市教育委員会
楊　普景（2003）：15 ～ 17 世紀、朝鮮の世界地図と世界認識、21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」15・16・17 世紀成立の絵図・地図と世界観ニューズレター第３号
楊　普景・渋谷鎮明（2003）：日本に所蔵される 19 世紀朝鮮全図に関する書誌学的研究－『大東輿地図』および関連地図を中心に－、歴史地理学 45-4
下條正男（2004）：『竹島は日韓どちらのものか』、文藝春秋
金　学俊（2004）：『独島/竹島 韓国の論理』、論創社

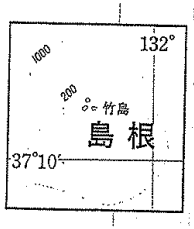
表　韓国古地図にみえる于山島と鬱陵島

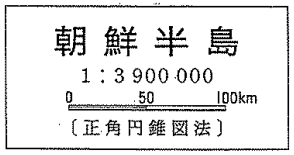
絵図種類	番号	絵図名	著者	成立年代	所蔵	出典	于山島	鬱陵島	備考
天下図 world maps	1	混一疆理歴代国郡之図	権近・金士衡・李茂・李薈	1402年	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』5	×	○	龍谷大学本の模写
	2	混一歴代国郡都疆理地図	不明	16世紀中期	ソウル・仁村紀念館	李燦(1991):『韓国の古地図』1・2	○	×	
	3	華東古地図	不明	16世紀	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』3・4	○(西)	○(東)	字が欠けている
	4	坤輿万国全図	不明	1602年原図 1708年写	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』18	×	×	
	5	天下都地図	艾儒略	1623年原図 1770年代写	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』23	×	○	
	6	●天下輿地図	不明	1747年	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』6	×	×	木版本
	7	天下輿地図	不明	1747年	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』7	×	×	江原道の東に島の記載あり
	8	天下大摠一覧之地図	不明	18世紀初期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』8・9	○(西)	○(東)	「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり
	9	●輿地全図	不明	18世紀末期	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』11	×	○	木版本
朝鮮全図 道別図 Korea and provincial maps	10	朝鮮全図	不明	16世紀中期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』48	○(北)	○(南)	筆写本　鬱陵島を「鬱山島」と記す
	11	●朝鮮図(帖『広輿図』)	羅洪先(明人)	16世紀後期	一	李燦(1991):『韓国の古地図』挿図2	×	×	木版本
	12	●朝鮮八道輿地之図	不明	16世紀後期	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』44	×	×	木版彩色本
	13	●八道総図(帖『東覧図』)	朝鮮朝官撰	1530年	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』41	○(西)	○(東)	木版本
	14	朝鮮方域之図	不明	1557年頃	韓国・国史編纂委員会	李燦(1991):『韓国の古地図』40	×	×	
	15	江原道(帖『八道地図』)	不明	17世紀初期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』109	×	○	「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり
	16	八道総図(帖『朝鮮写古地図帖』)	不明	17世紀前期	個人蔵	塚本孝(1980):レファレンス	○(西)	○(東)	「于山」は島ではなく、地名(国名)
	17	●朝鮮八道古今総覧之図	不明	17世紀後期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』50	○(北)	○(南)	木版本
	18	海東八道烽火山岳地図	不明	17世紀後期	高麗大学校図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』54	○(西)	○(東)	
	19	●八道総図(帖『天下総図』)	不明	17世紀末期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』挿図5	×	○	木版本　天下図は『韓国の古地図』17所収
	20	●江原道(帖『東覧図』)	不明	17世紀頃	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』挿図16	○(西)	○(東)	木版本
	21	●朝鮮八道古今総覧図	金壽弘	1673年	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』46	○(北)	○(南)	木版本　「鬱陵島方百里」とあり
	22	朝鮮八道古今総覧図	金壽弘	1673年	許英桓	李燦(1991):『韓国の古地図』47	○(北)	○(南)	筆写本　「鬱陵島方百里」とあり
	23	八道総図	不明	1683年	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』49	○(西)	○(東)	
	24	●朝鮮全図	不明	18世紀初期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』52	×	○	木版本
	25	江原道(帖『東国地図』)	鄭尚驥	18世紀中期	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』69	○(北東)	○(西)	于山島は文字のみ
	26	八道総図(帖『朝鮮地図並八道天下地図』)	不明	18世紀中期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』128	○(西)	○(東)	
	27	東国八道大総図(帖『輿地攷覧図譜』)	不明	18世紀中期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』133	×	○	
	28	朝鮮全図	不明	18世紀後期	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』58	○(東)	○(西)	
	29	●江原道(帖『輿地図』)	不明	18世紀後期	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』121	○(南)	○(北)	木版本、于山島は「子山島」とあり
	30	朝鮮八道地図	不明	18世紀末期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』59	○(北東)	○(西)	
	31	東国地図	不明	18世紀末期	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』61	×	○	
	32	我国摠図(帖『輿地図』)	不明	18世紀末期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』74	○(東)	○(西)	
	33	朝鮮・日本・琉球国図(帖『輿地図』)	不明	18世紀末期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』75	×	○	
	34	江原道(帖『輿地図』)	不明	18世紀末期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』80	○(北東)	○(西)	于山島は「杵山島」とあり
	35	朝鮮全図(帖『海東図』)	不明	18世紀末期	湖巖美術館	李燦(1991):『韓国の古地図』94	○(東)	○(西)	
	36	●東国地図	不明	19世紀初期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』51	○(西南)	○(東北)	木版本　于山島を「于山」と記す　鬱陵島に「名于山国方百里」とあり
	37	朝鮮国八道統合図	不明	19世紀初期	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』53	×	○	
	38	朝鮮全図	不明	19世紀初期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』55	○(東)	○(西)	江原道杵城と箕浦の間の海岸に「竹島」あり(現在も杵城の東南にあり)　「朝鮮総督府図書館」蔵書印あ
	39	朝鮮全図	不明	19世紀初期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』56	○(東)	○(西)	
	40	●海左全図	不明	19世紀前期	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』57	○(東)	○(西)	木版本
	41	東国全図(帖『東国地図』)	不明	19世紀前期	湖巖美術館	李燦(1991):『韓国の古地図』86	○(東)	○(西)	
	42	江原道(帖『東国地図』)	不明	19世紀前期	湖巖美術館	李燦(1991):『韓国の古地図』90	○(東)	○(西)	
	43	朝鮮全図(帖『海東輿地図』)	不明	19世紀前期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』101	×	○	
	44	江原道(帖『海東輿地図』)	不明	19世紀前期	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』103	○(東)	○(西)	江原道杵城の沖に「竹島」あり
	45	●袖珍八道地図	不明	19世紀前期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』146	○(南)	○(北)	銅板本
	46	●大朝鮮国全図(帖『輿域地図』)	不明	19世紀後期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』147	○(東)	○(西)	銅板本
	47	●江原道図(帖『輿域地図』)	不明	19世紀後期	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』152	○(東)	○(西)	銅板本
	48	東国八道輿地図	不明	1819年	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』45	×	×	
	49	青邱図	金正浩	1834年	韓国・国立中央図書館	李燦(1991):『韓国の古地図』143	―	―	
	50	朝鮮全図	金大建	1846年	不明	金学俊(2004):『独島/竹島 韓国の論理』p.53	―	―	
	51	●大東輿地図 *	金正浩	1861年	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』135	×	○	木版本、「朝鮮総督府図書館」蔵書印あり
	52	東輿図	金正浩	1860年代	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』140	―	―	
	53	●大東輿地全図	金正浩	1860年代	崇實大学校博物館	李燦(1991):『韓国の古地図』60	×	○(東)	木版本
	54	●大韓全図	学部編輯局	1899年	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』155	○(東)	○(西)	銅板本
	55	●大韓輿地図	学部編輯局	1900年頃	李燦	李燦(1991):『韓国の古地図』154	○(東)	○(西)	銅板本
	56	●大韓帝国地図	玄公廉	1908年	尹炯斗	李燦(1991):『韓国の古地図』156	×	○	銅板本、地図の記載読めず
郡県図 county maps	57	鬱陵島(帖『海東地図』)	不明	18世紀中期	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』195	○(東)	○(西)	「京城帝国大学図書」蔵書印あり
	58	鬱陵島図(帖『朝鮮輿誌』)	不明	19世紀	(国立国会図書館)	塚本孝(1980):レファレンス	○(東)	○(西)	
	59	鬱陵島地図	朴錫昌ほか	1831年	不明	下條(2004):『竹島は日韓どちらのものか』p.110	―	―	
	60	鬱陵島外図	李壽遠	1882年頃	ソウル大学校奎章閣	李燦(1991):『韓国の古地図』227	×	○	

凡例　○:絵図に記載あり　×:絵図に記載なし　―:参考文献に記載なし(未見)　●:木版本、銅板本　*:吉田光男(1994):『大東輿地図』、草風閣より確認、国立国会図書館筆彩本には鬱陵島の東に于山島記載あり

文献　李燦(1991):『韓国の古地図』(韓文)、汎友社
塚本孝(1980):竹島関係旧鳥取藩文書および絵図(下)、レファレンス昭和60年5月号
下條正男(2004):『竹島は日韓どちらのものか』、文藝春秋
金学俊(2004):『独島/竹島 韓国の論理』、論創社







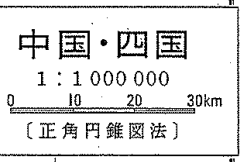


図1 竹島・ウルルン島の位置
『基本地図帳』二宮書店

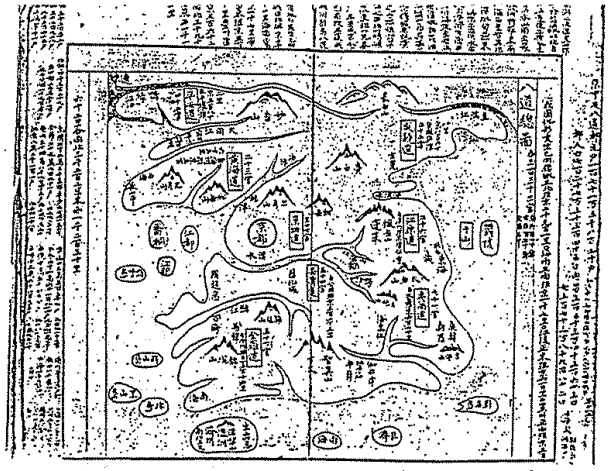
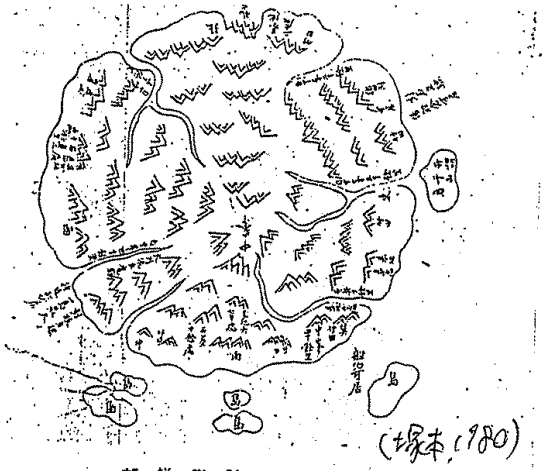


図2 朝鮮写古地図帖 八道総図（塚本 1980）



（塚本，1980）

図3 朝鮮輿誌 蔚陵島図

鬱陵島

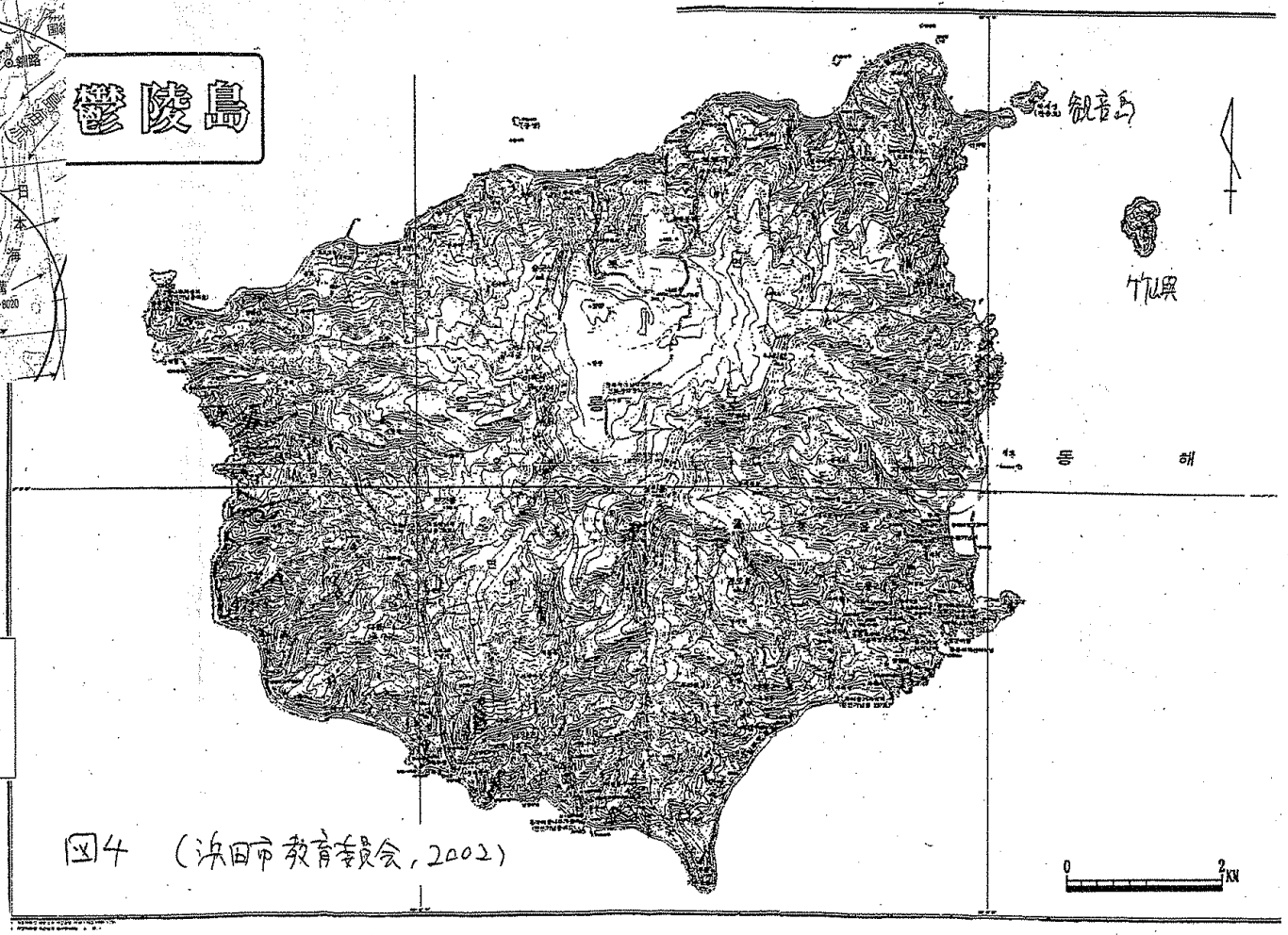
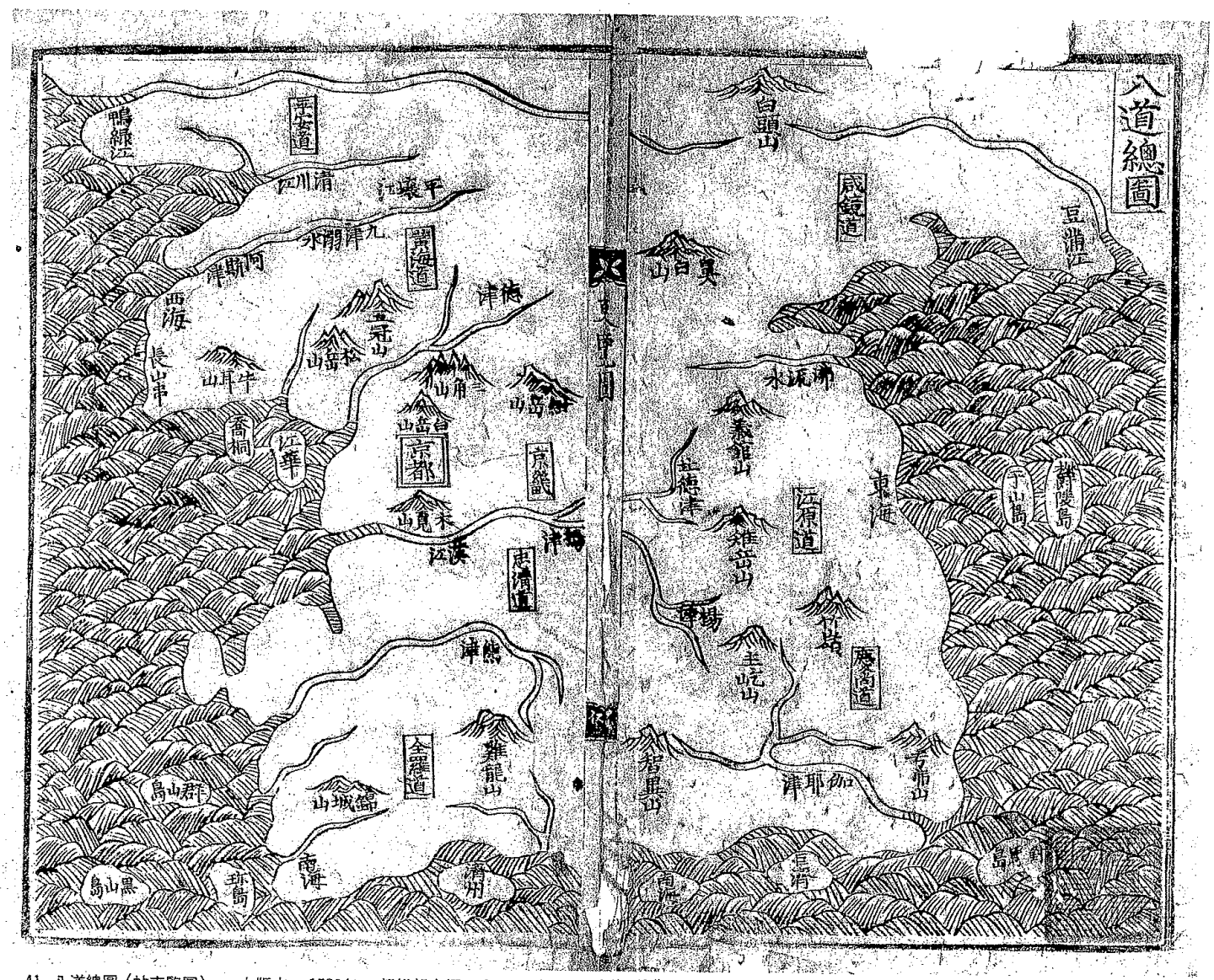


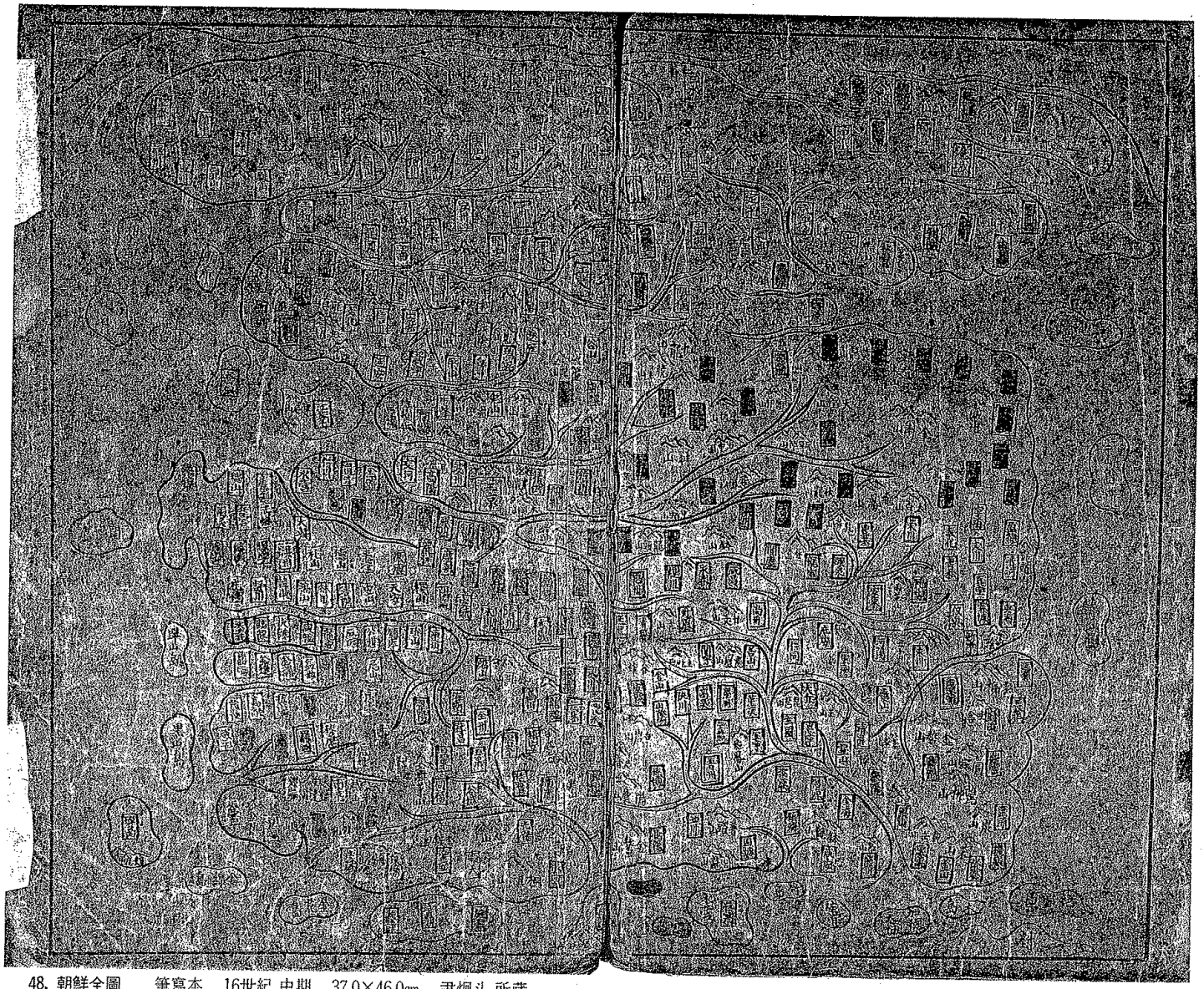
図4 （浜田市教育委員会，2002）



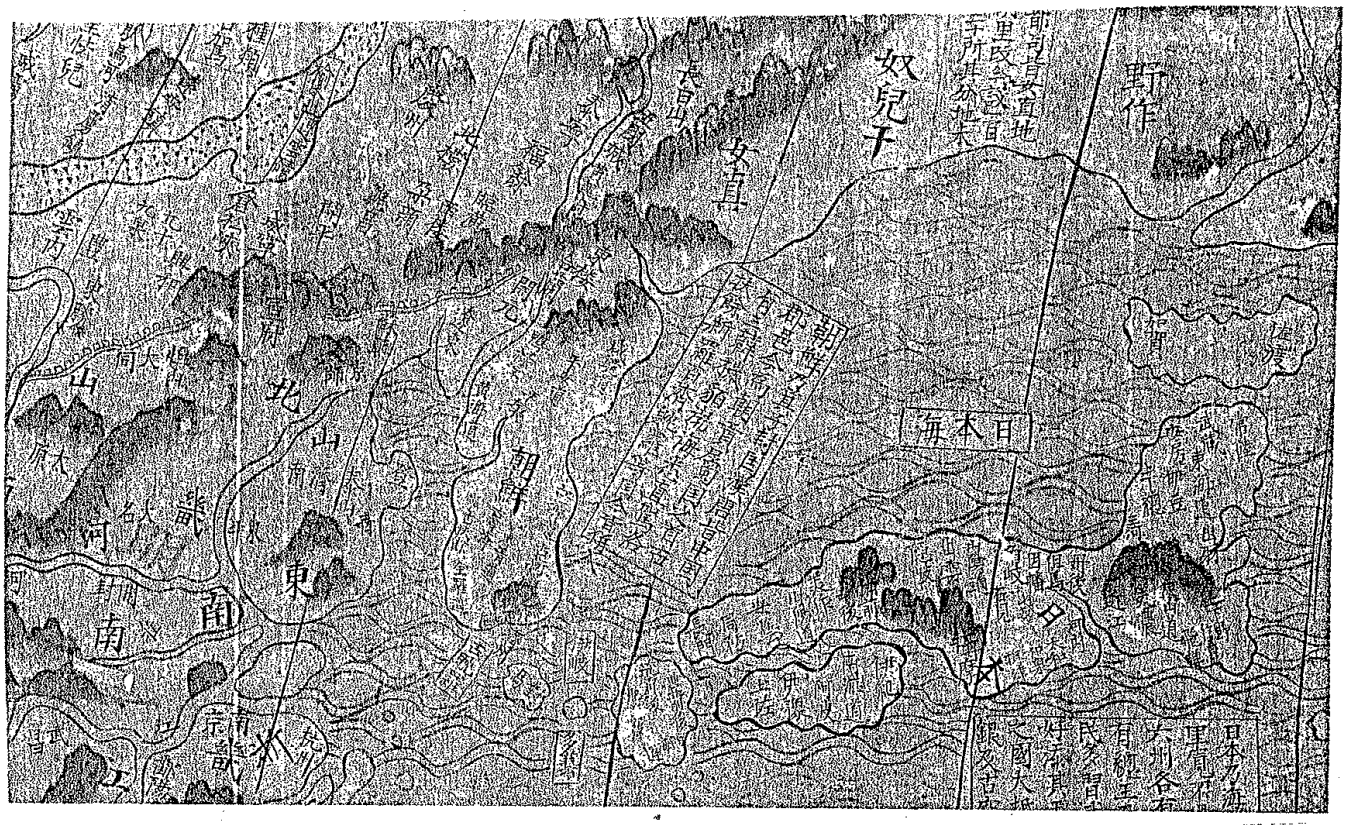
41. 八道總圖（帖東覽圖）　木版本．1530年．朝鮮朝官撰．27.0×34.2cm．李燦 所藏．

図5　P'aldo Ch'ong-do (Tongnam-do)　*Map of Eight-Provinces (Korea)*　Woodblock Print
Chosŏn Dynasty Government　1530 A.D.　27.0×34.2cm　Lee Chan collection

No.3



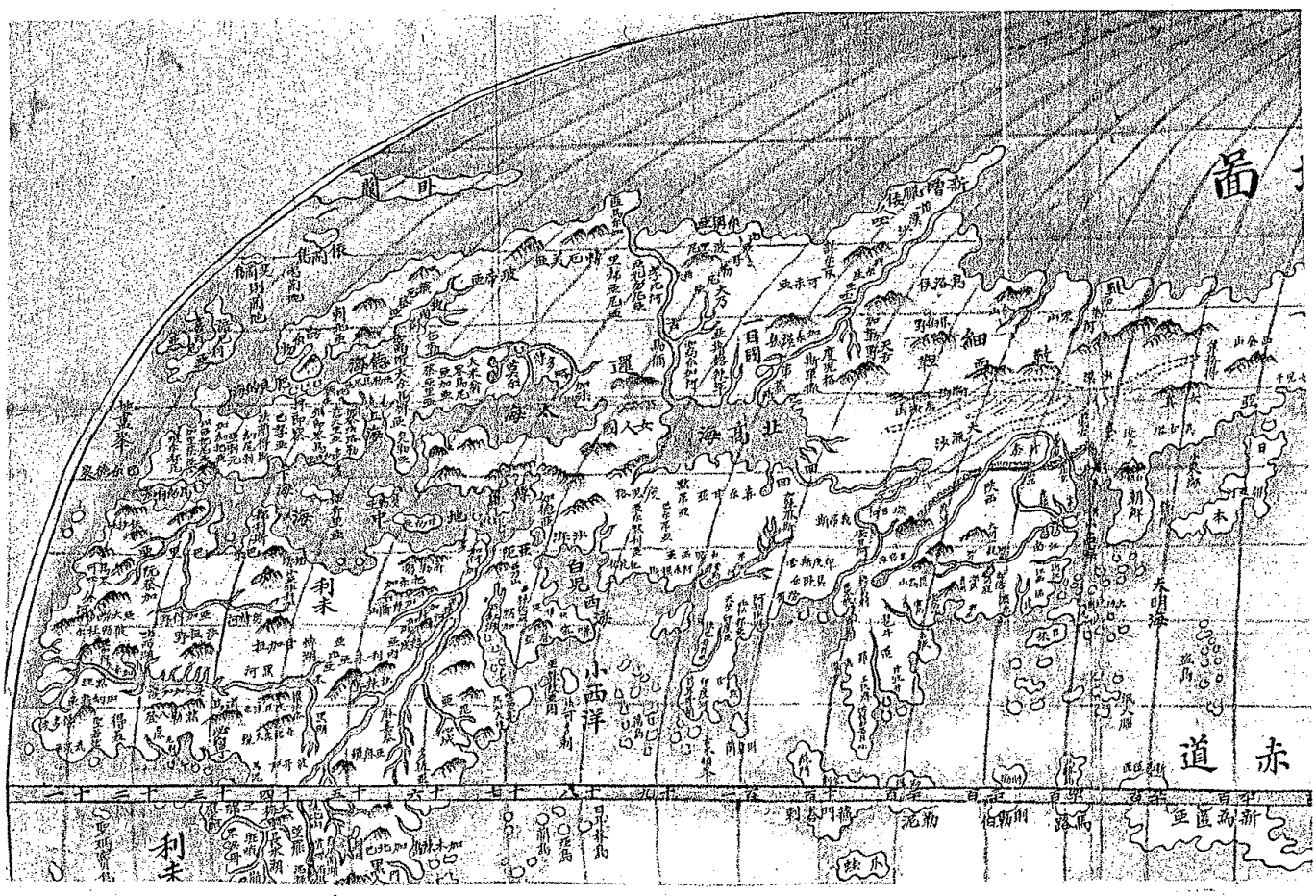
48. 朝鮮全圖　筆寫本. 16世紀 中期. 37.0×46.0cm. 尹炯斗 所藏.
図6 Chosŏn Chŏn-do *Map of Korea* Manuscript map Mid-16th century
37.0×46.0cm Yoon Hyung-doo collection



19.
坤輿萬國全圖　部分
Detail of Korea in the Plate No. 18

圖7

18. 坤輿萬國全圖　彩色寫本. 마테오 리치. 1602年 原圖. 1708年 筆寫. 172.0×531.0cm. 寶物 849號. 서울大學校 博物館 所藏.
Konyŏ Manguk Chŏndo *Map of the World* Manuscript copy in color Original map by Matteo Ricci in 1602 A.D.
Reproduced in Korea, 1708 A.D. .172.0×531.0cm Treasure No.849 Seoul National University Museum



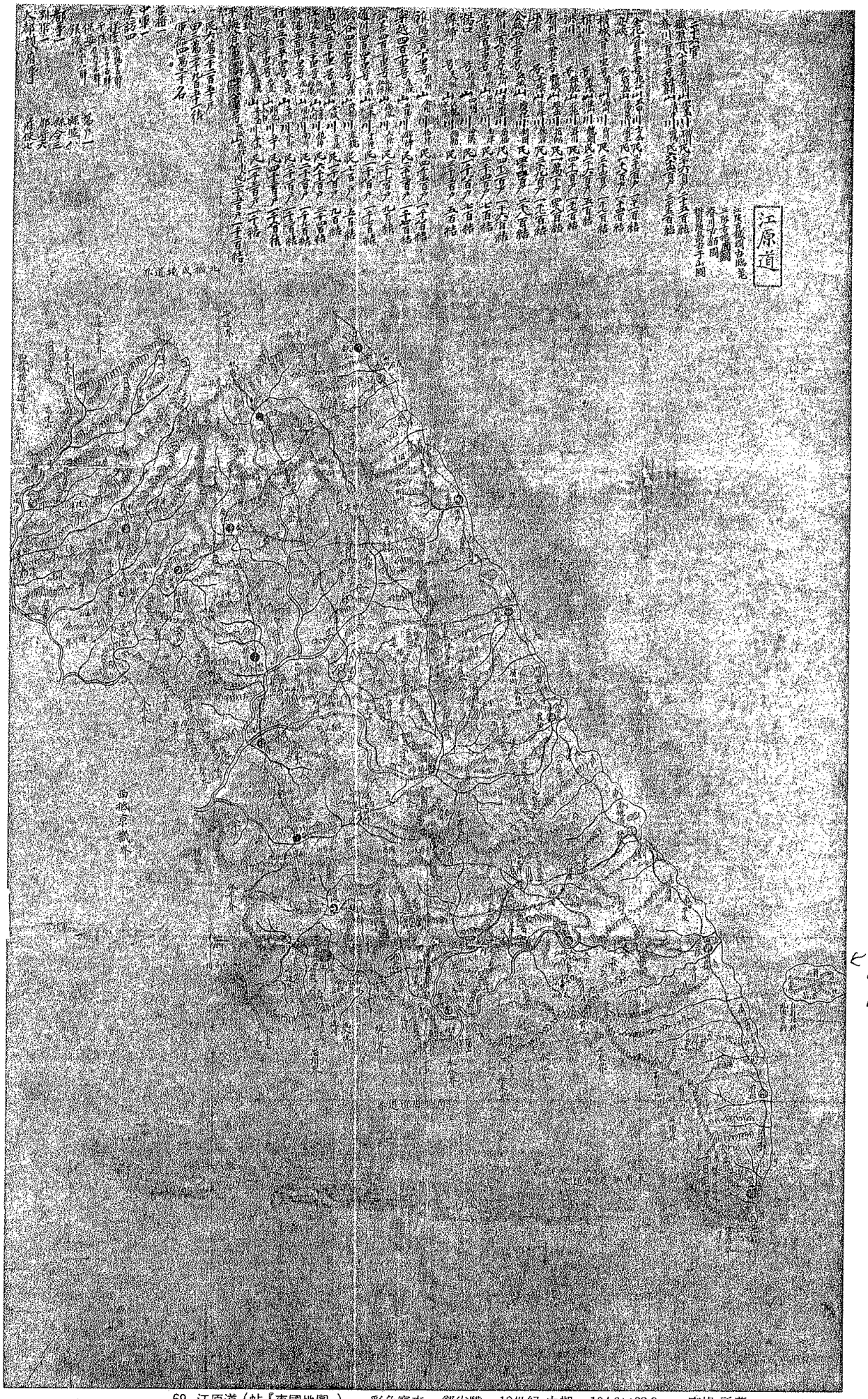
23. 天下都地圖［萬國全圖］　彩色寫本. 艾儒略 原圖 1623年. 1770年代 筆寫. 50.5×103.0cm. 서울大學校 奎章閣 所藏.
Chŏnha To-chido (Manguk Chŏn-do) *Map of the World* Manuscript map in color
Original map by Giulio Aleni in 1623, Copied in ca. 1770 A.D. 50.5×103.0cm
Kyujanggak Archives, Seoul National University

圖8

No. 4

46. 朝鮮八道古今捻覽圖　木版本. 金壽弘. 1673年. 137.5×107.0㎝. 崇實大學校 博物館 所藏.
Chosŏn P'aldo Kogŭm-Ch'ongnam-do *Map of Korea, Past and Present* Woodblock Print
by Kim Soo-hong 1673 A.D. 137.5×107.0cm Korean Christian Museum, Soongsil University

図9



69. 江原道（帖『東國地圖』）　彩色寫本．鄭尚驥．18世紀 中期．104.0×63.0cm．李燦 所藏．
Kangwŏndo (Tongguk-chido) *Map of Kangwŏn Province (Atlas of Korea)* Manuscript map in color by Chŏng Sang-gi Mid-18th century 104.0×63.0cm Lee Chan collection

図10

No.5

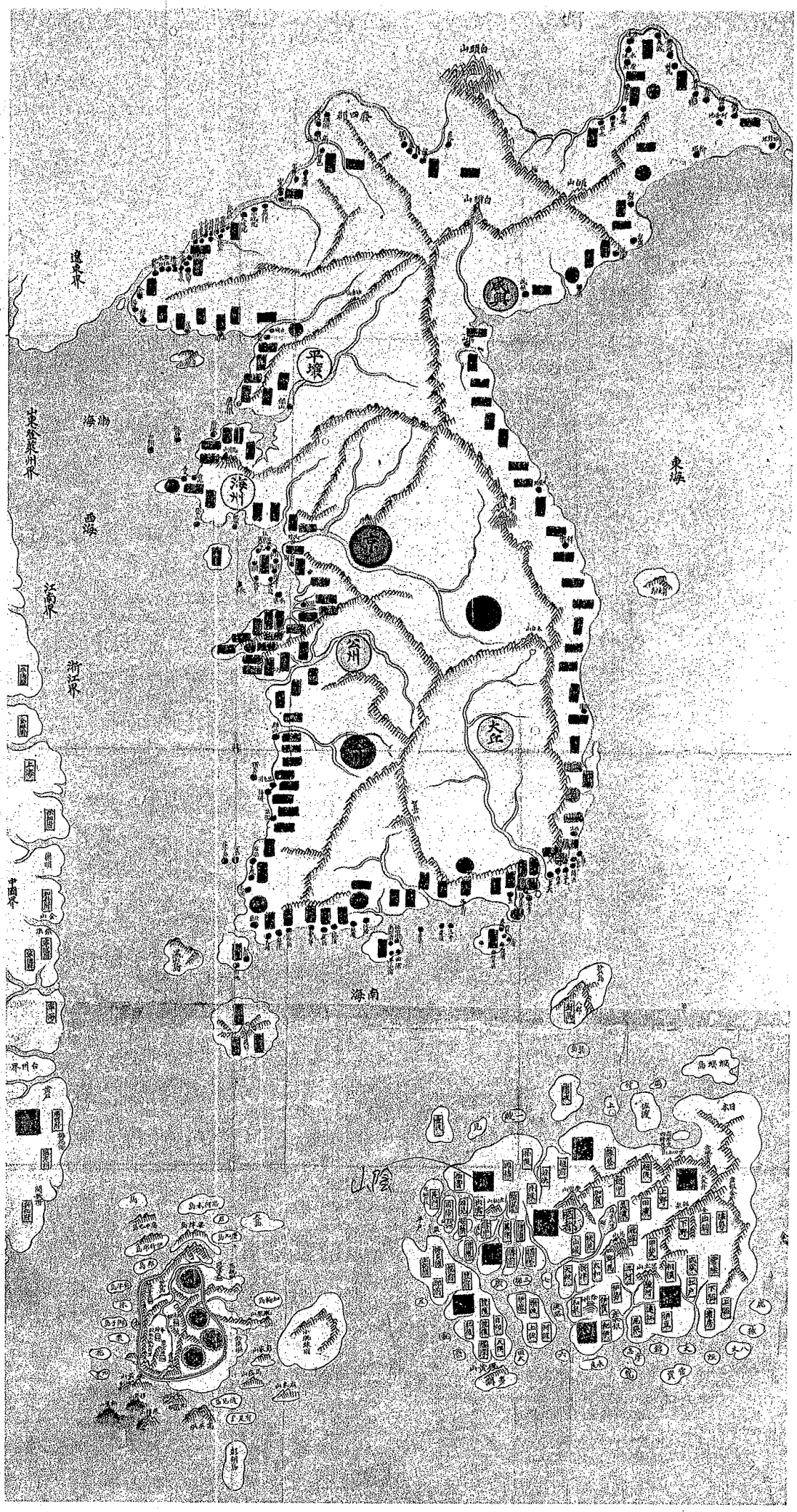
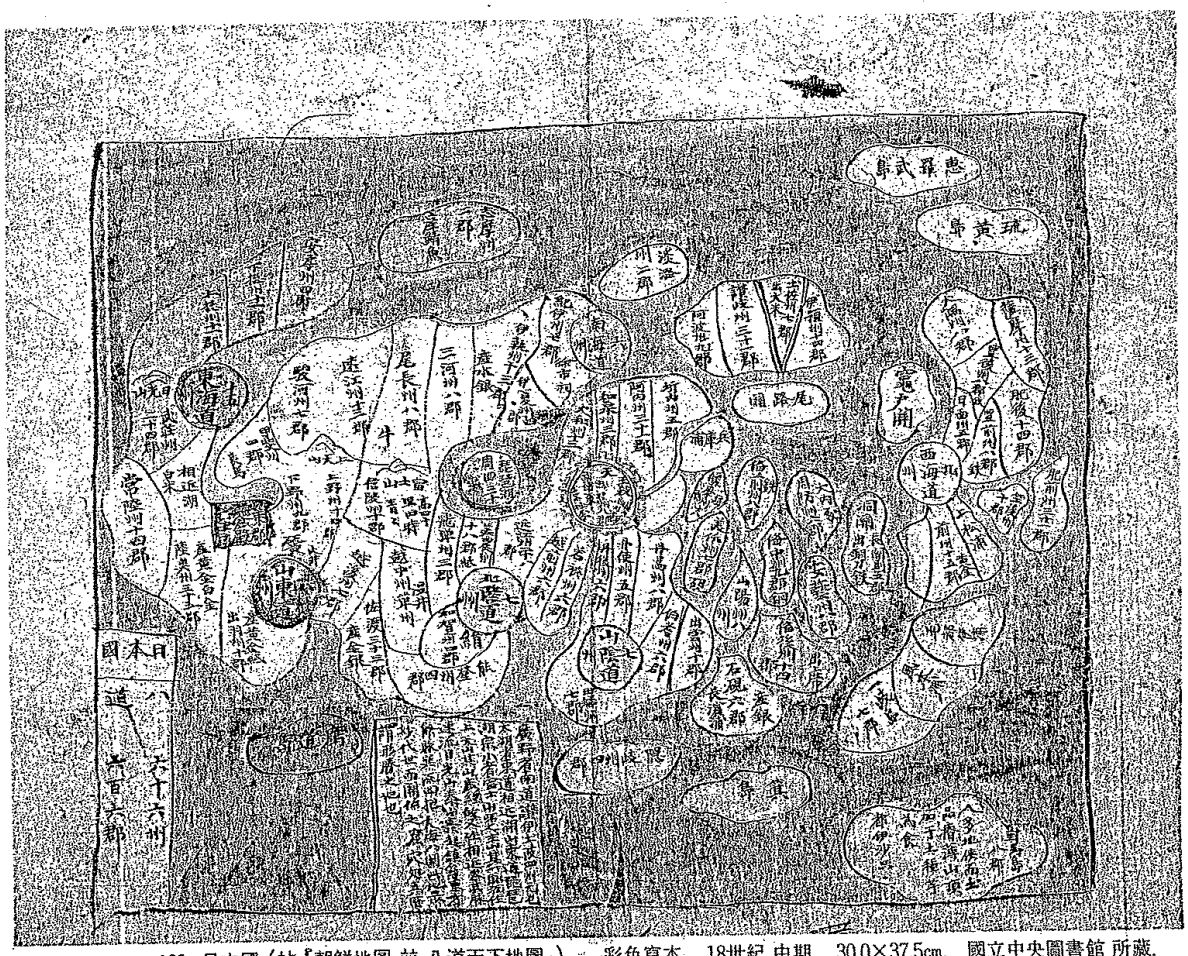


図11

75.
朝鮮・日本・琉球國圖
(帖『輿地圖』)
彩色寫本
18世紀 末期
113.0×59.5cm
서울大學校 奎章閣 所藏
Chŏson, Ilbon, Yugu-guk-do (Yŏ-chido)
Map of Korea,
Japan and Ryukyu (Atlas of Korea)
Manuscript map in color
End of 18th century
113.0×59.5cm
Kyujanggak Archives,
Seoul National University



129. 日本國 (帖『朝鮮地圖 竝 八道天下地圖』) 彩色寫本. 18世紀 中期. 30.0×37.5cm. 國立中央圖書館 所藏.
Ilbonguk (Chosŏn-chido Pyŏng P'aldo Ch'ŏnha-chido) *Map of Japan(Atlas of Korea with the World)*
Manuscirpt map in color Mid-18th century 30.0×37.5cm National Central Library; Seoul

図12

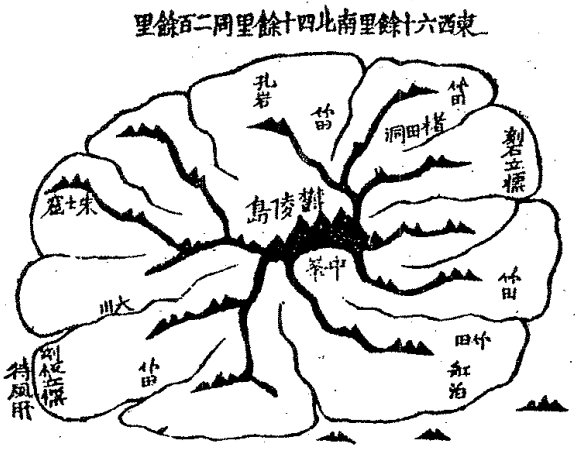
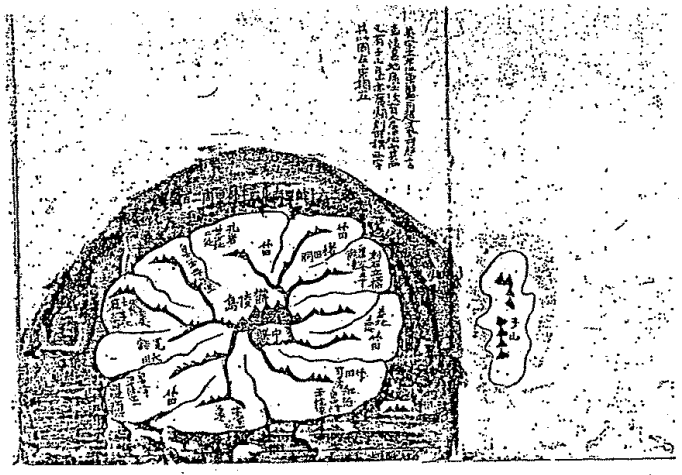


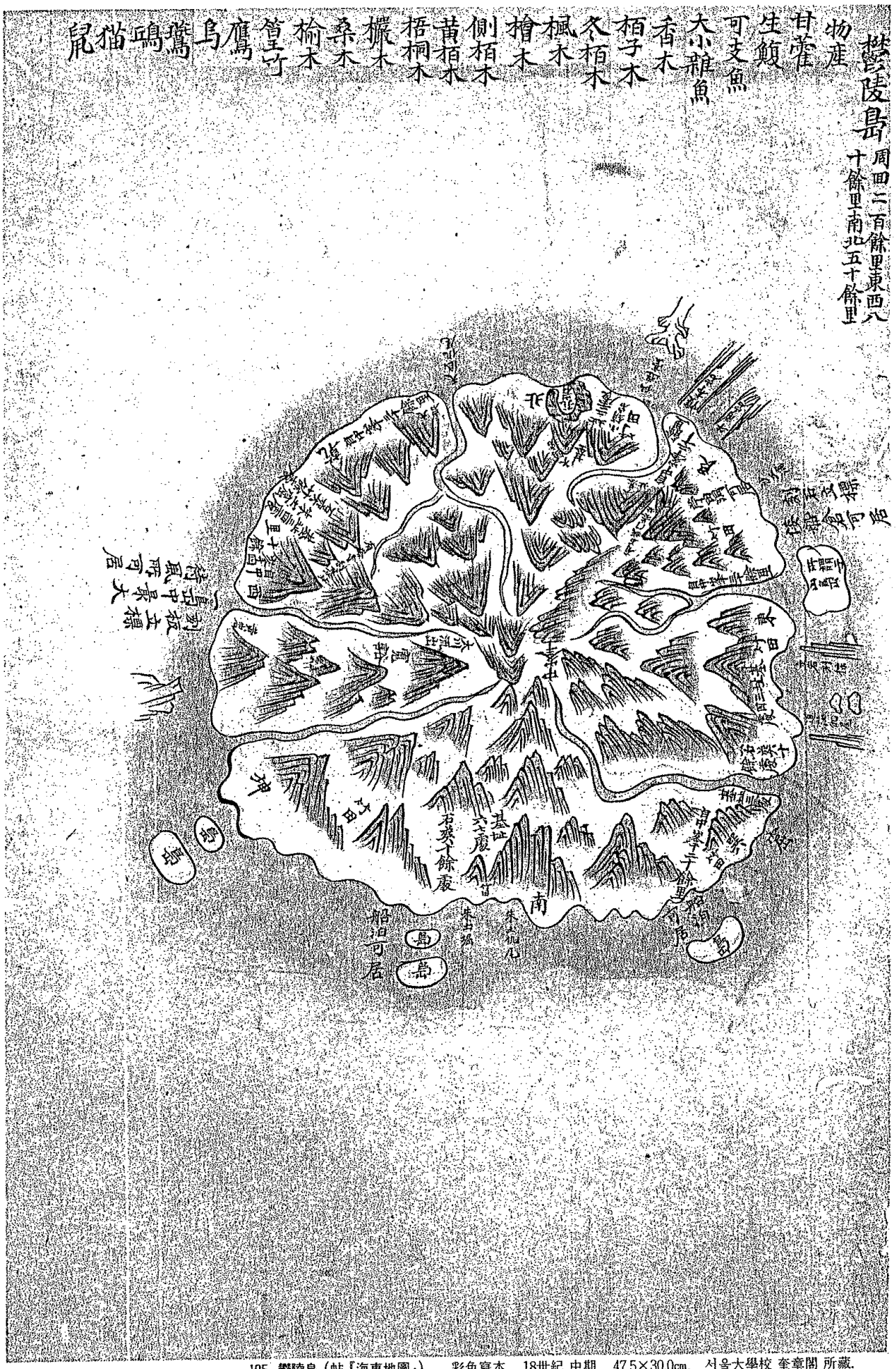
図14 大東輿地図
(韓, 1994)



大東輿地圖 第十四帖(部分)

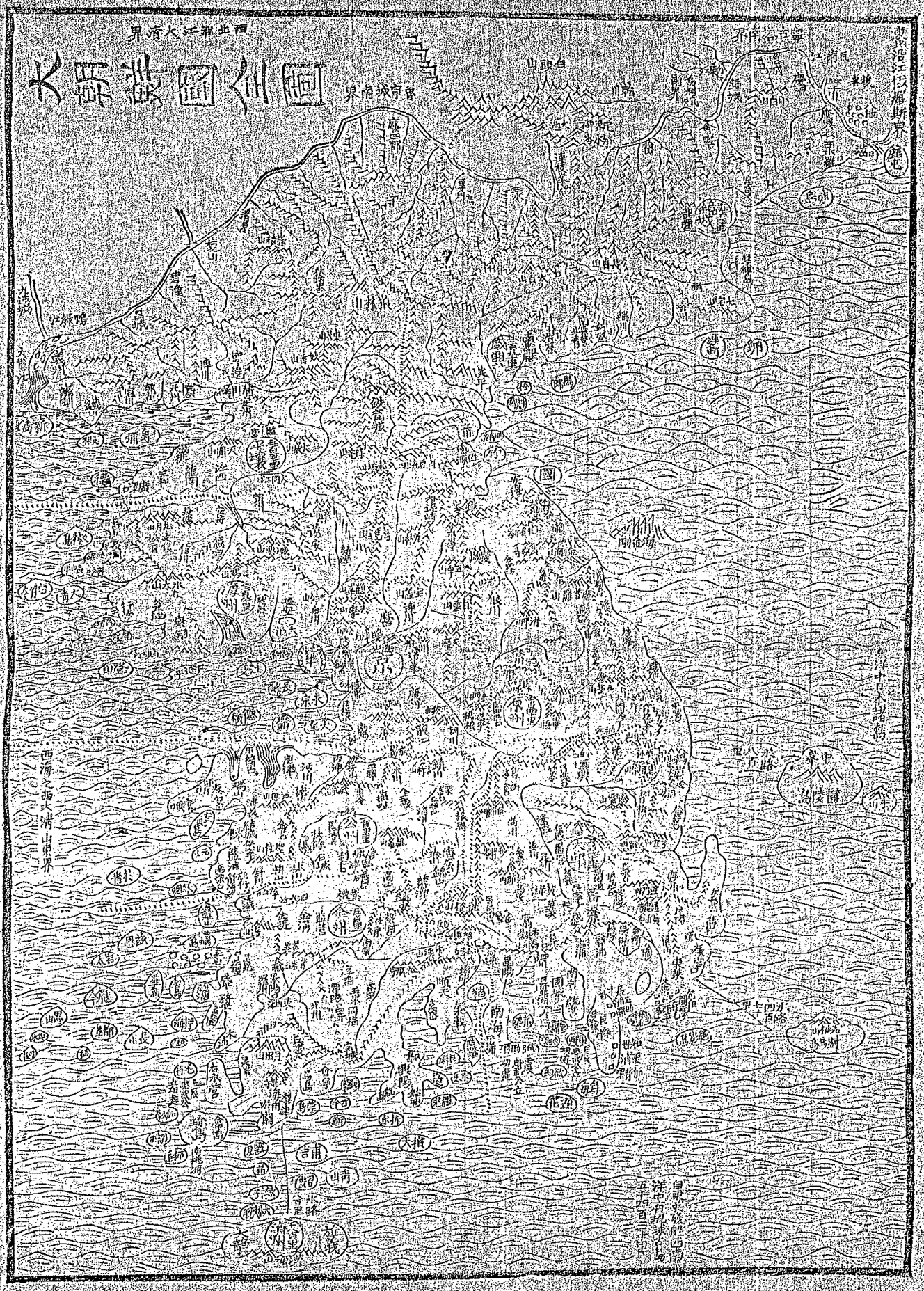
図15
(堀木, 1980)

No.6



195. 鬱陵島 (帖『海東地圖』) 彩色寫本. 18世紀 中期. 47.5×30.0cm. 서울大學校 奎章閣 所藏.
Ullŭngdo (Atlas of Korea) *Map of Ullŭng Island* Manuscript map in color Mid-18th century
47.5×30.0cm Kyujanggak Archives, Seoul National University

図13

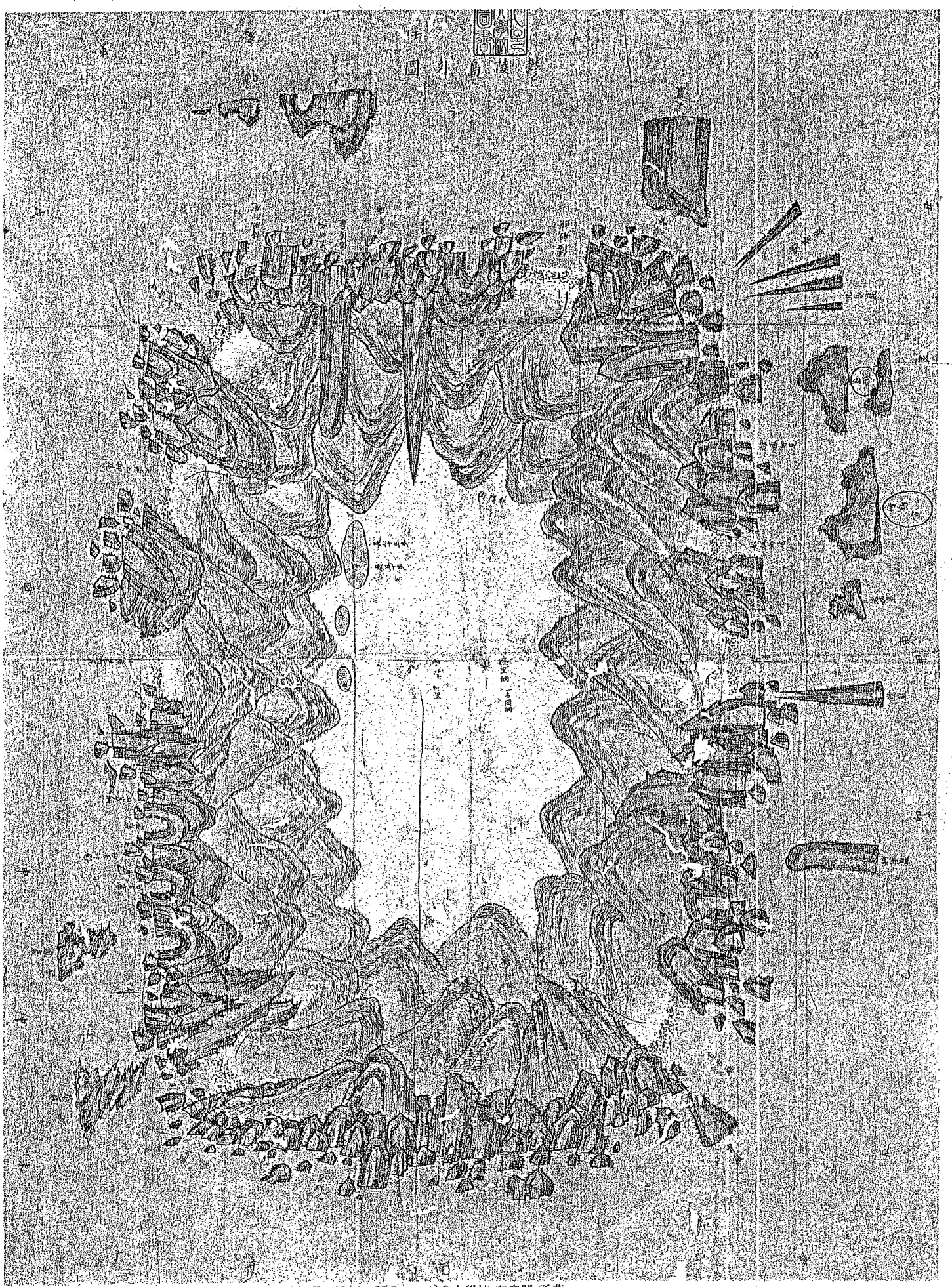


147. 大朝鮮國全圖 (帖『鮮域地圖』)　銅版本. 19世紀 後期. 21.0×30.0cm. 尹炯斗 所藏.

Tae-Chosŏnguk Chŏn-do (Chŏbyŏk-chido) *Map of Korea (Atlas of Korea)* Copper Plate Print
Late 19th century 21.0×30.0cm Yoon Hyung-doo collection

図16

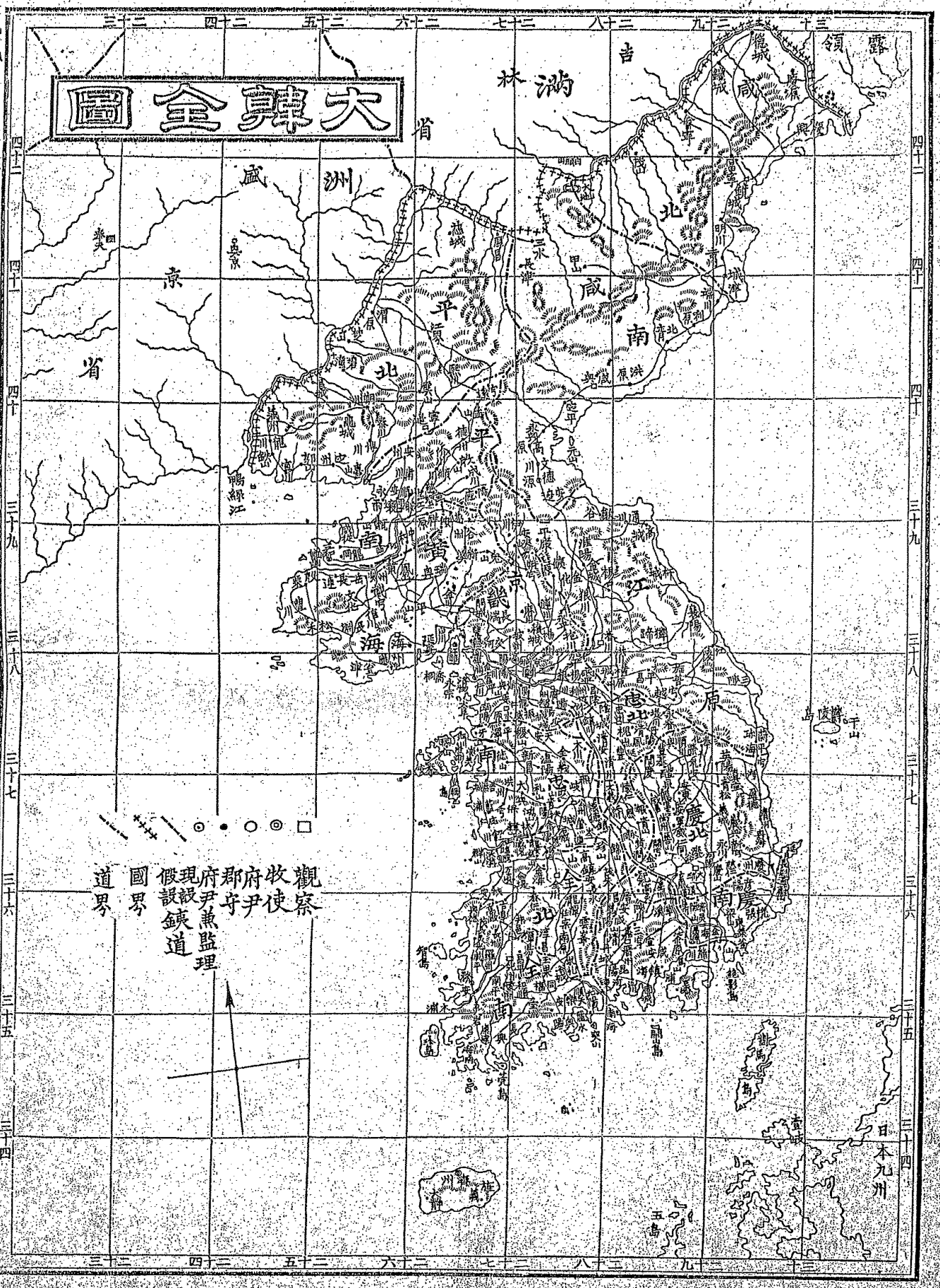
No.7



. 227. 鬱陵島 外圖　　彩色寫本. 李奎遠. 1882年頃 134.0×97.5cm. 서울大學校 奎章閣 所藏.
Ullŭngdò Ōe-do *Map of Ullŭng Island* Manuscript map in color Yi Kyu-wŏn ca. 1882 A. D.
134.0×97.5cm Kyujanggak Archives, Seoul National University

図17

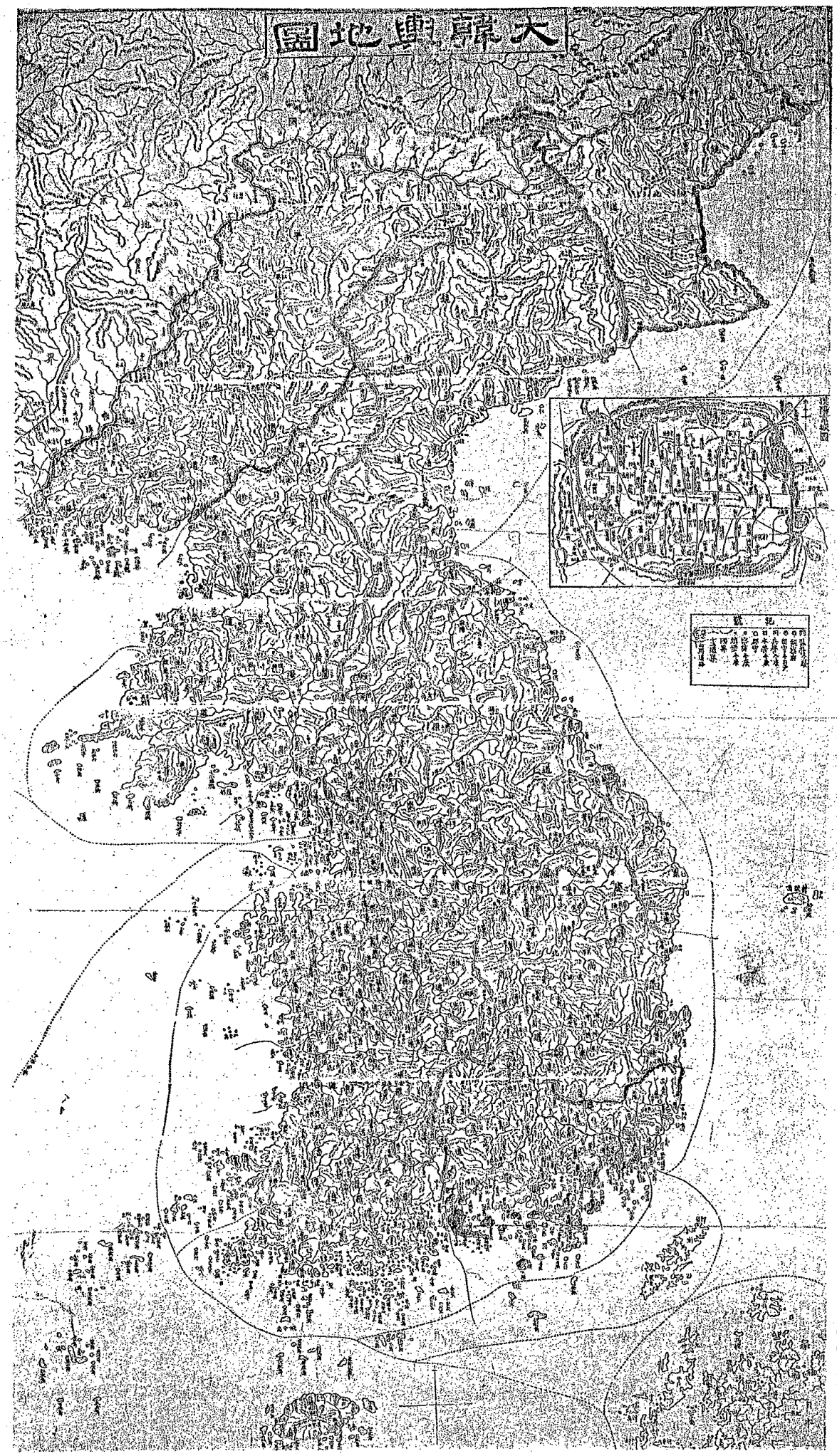
光武三年十二月十五日學部編輯局刊行



155. 大韓全圖　銅版本. 學部編輯局. 1899年. 33.7×25.0cm. 李燦 所藏.
Taehan Chŏn-do *Map of Korea* Copper Plate in color Textbook Bureau of Ministry of Education
1899 A.D. 33.7×25.0cm Lee Chan collection

図18

No.8



154.
大韓輿地圖
銅版本.
學部編輯局.
1900年頃
152.0×84.5cm.
李燦 所藏.
Taehan Yŏ-chido
Map of Korea
Copper Plate Print
Textbook Bureau of Ministry of Education
ca. 1900 A.D.
152.0×84.5cm
Lee Chan collection

図19